



市政刷新会議活動報告

市では管理運営費用の削減と利用者のサービス向上のため、各施設の管理運営を指定管理委託している。その各種施設等を訪問、管理運営等及び新型コロナウイルス感染症の影響等について現地調査・意見交換を行いました。

スカイピアあだたら(温泉保養館・アクティブパーク)

スカイピアあだたらは、温泉保養施設(数種類のお風呂やサウナ、売店やレストラン等)と芝生広場等及びアクティブパーク(スケートボード・クライミング・スラックラインの体験ができる屋内複合施設)を備えた施設で、市から二本松市振興公社が指定管理を受託管理運営されている。

平成30年4月より体育館内にアクティブパークが開館され、愛好者等が活動利用されている。温泉保養館については、利用者が維持されてきたが、今度の新型コロナウイルス感染症による



説明研修状況

入館者減少の影響は見られる状況にある。

新型コロナウイルス感染症対策として、食堂の仕切りや人数制限等も行い営業を継続している。さらに今後は、施設入口に「サーマルAIカメラ体温計」の設置を早急に設置すべきと要請・提案をした。アクティブパークは厳しい運営状況にあるが、コロナ終息に向け集客PRが必要である。



アクティブパーク全景



アクティブパーク ボルダリング前にて

道の駅 安達・和紙伝承館

道の駅は駐車や休憩等道路利用者の憩いの場として、地域の文化、歴史、名所、特産物等の情報を活用しサービスを提供、地域の核として地域連携が促進されるなど期待されており、「休憩機能」「情報発信機能」「地域の連携機能」を持つ地域拠点施設です。

施設概要 **上り線施設** 駐車場(192台)、トイレ、地域物産・野菜直売コーナー、軽食・レストラン、コンビニ、休憩ロビー、和紙伝承館等
下り線施設 駐車場(139台)、トイレ、地域物産・野菜直売コーナー、飲食・レストラン、コンビニ、休憩ロビー等



道の駅自動ドア拝見研修

運営状況については安定状況にあるが、新型コロナウイルス感染症の多少の影響はあったものの、国のGoToキャンペーンの効果は大きかったとの報告があった。

下り線においてはコロナ感染症の非接触対策により、入口に自動ドアが設置された現地視察を行った。さらに「サーマルAIカメラ体温計」の設置を要請・提案した。



道の駅全景



説明研修状況

二本松市民交流センター・大山忠作美術館

市民交流センターは、産業・観光、芸術文化、生涯学習などの機能を集積し、中心市街地の活性化と市民交流の推進を図る施設として、平成21年にオープン「特定非営利活動法人まちづくり二本松」が二本松市より受託し管理運営を行っています。

施設概要としては、1階施設(多目的室、テナントブース、野外イベント広場等)
2階施設(音楽・創作スタジオ、会議室、子供・みんなの広場、展示コーナー等)



二本松市民交流センター全景

3階施設（大山忠作美術館、市民ギャラリー等）及び1階から3階までの立体駐車場（126台収容）を備えております。運営状況については交流館収入、駐車場収入、テナント、美術館収入等であり減少傾向にある。特にコロナ感染症対策による街中飲食店への営業休止や営業時短要請等を受け、駐車場収入の減収が大きく影響を受けている。コロナ持続化給付金支援策は運営上大変有効であった報告を受けた。コロナ禍ではあるが利用頻度の少ない施設部の利用促進を図れるよう用途も考慮・検討すべきである。また、美術館においては魅力的な企画展を切れ目なく通年開催できるよう各方面から検討協議し、施設の有効利用を図ってほしい。

二本松市ウッディハウスとうわ

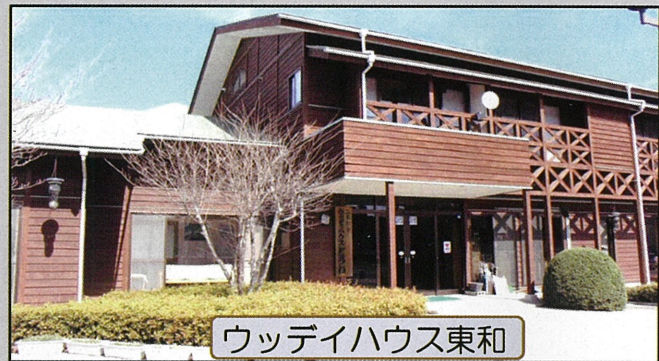
ウッディハウス東和は、研修・レジャー・スポーツ合宿等に利用できる宿泊研修施設で、体育館・グラウンド・テニスコート・ログハウス等を備え、60名程度が宿泊できる施設です。開設当初は町直轄の運営であったが、後に民間企業に指定管理委託し運営され、平成30年度より地元有志で立ち上げた「ウッディ振興社」に管理運営を委託されています。

施設利用状況は増加傾向にあるが、コロナ禍で宿泊客は減少傾向にある。入浴客はコロナ禍の中ではあるが増加傾向にある。

今年開催の東京オリンピックで、本市がホストタウンとしてデンマークのカヌーチームの受け入れが、ウッディハウスとうわに決定しており、その合宿に向け準備を進めている説明があった。また、新設の喫煙所について分煙効果が有効で利用客には大変好評である説明があった。給水設備の不具合等の説明があり、対策を早急に進める要請を申し上げた。



ウッディハウス東和研修状況



ウッディハウス東和



阿武隈漕艇場のカヌー

道の駅ふくしま東和

平成12年「道草の駅あぶくま館」としてオープン、16年に道の駅として登録された。

施設概要 駐車場44台、トイレ、地域特産品展示販売、各種体験加工調理施設、地域PRコーナー、中華料理店等

新型コロナウイルスによる客足減少・各種イベントの中止や縮小、桑茶販売予定先の極端な受注減少等による影響は大変大きかった。農産物等の購入者は8月以降から増加傾向を示し、様々な取組等を行ったが前年度を上回る売り上げ結果とならなかった。

コロナ禍の経営持続化給付金支援策は大変有効であったこと、GoToトラベル支援策やにほんまつ市民生活応援券の売り上げが好調であった報告がありました。

今後の新たな商品開発、食堂メニュー再考等の取り組み、道の駅全体の改善・改修、機能配置の問題点など意見交換をしました。食堂との主要通路となる裏入口にコロナ感染症の非接触対策による自動ドア設置について要請・提案をしました。また、事務機器の更新等の要望・要請がありました。

今後の新たな商品開発、食堂メニュー再考等の取り組み、道の駅全体の改善・改修、機能配置の問題点など意見交換をしました。食堂との主要通路となる裏入口にコロナ感染症の非接触対策による自動ドア設置について要請・提案をしました。また、事務機器の更新等の要望・要請がありました。



道の駅ふくしま東和研修状況



道の駅ふくしま東和

道の駅さくらの郷

農産物直売所、加工施設、ピザ工房、体験交流施設、駐車場（45台）等を備え、栽培から加工品販売まで一連の流れにこだわりを持ち、施設内での加工品・お惣菜の製造、地元食材を使用した手作り季節料理・郷土料理等を提供する食堂も備える。

食堂にはテーブルに向かい合って中仕切りが設置され、また、会議室にも1人ずつの亚克力仕切り版が設けられ、感染症防止対策に万全を期した綿密さがうかがわれた。

新型コロナウイルスによる客足の減少や、イベントの制限等による影響があったものの、前年度比約1割程度の減収であるとの説明がありました。また、顧客からの意見として洋式トイレの設置を望む声、温水洗浄便座設置を望む声が多いとの報告がありました。



道の駅さくらの郷研修状況



道の駅さくらの郷

各市有施設写真市のHPより転載

議会 議員と長の関係

議員は住民の直接選挙で選ばれる住民の代表で、議員の役割は議員が代表する個別の住民の利益の実現を図ることではない。「市長には行政執行権」を「議会には条例・予算等の議決権及び監視権」を付与され、住民負託を受けた背景に、議会が一致団結して執行側と対峙していく役割を担う。しかし、現実的には議会よりも長の権限が強く、議会議員の機能が発揮されにくい場合が多い。それは、予算の提案権（調整権）が市長に専属している。議員に行政執行前提議案等議員に提案権がないとされるものが多い。議会の権限行使は各々の議員の合同行為であり、議員活動や権限行使が議会の権限としてまとまり難いためである。議員は市民の負託を受けた住民意思の反映のために、共同して議会の権限行使を行う議会の合同行為である。しかし、議員一人ひとりがその地位を活用し、自らの選出特定地域や団体の利益に繋がる活動を行うことが、議員の役割と考える議員が多い。結果、議会と長の関係は議員一人ひとりと長との関係になり、議員活動が議会力とならず議会が本来の役割を発揮できない結果となる。議会議員は一致団結して長と対峙して行くのが役割でありそれが議会である。つまり、提案議案にどのような問題、課題があるか、議会として長に示していくのが議会機能の発揮である。

対峙とは = 何かしらの問題に正面から立ち向かうこと。対決や対抗の意味とは違う。

市政刷新会議一般質問



野地久夫

医師確保対策事業について

問 30年度・元年度・2年度の事業内容成果を伺う
答 (保健福祉部長) 国公立・私立医科大学等に文書とウェブサイトで周知PRを行い、二本松病院では産科医・小児科医の募集をしたが、現役医師の確保に至っていない。

問 令和3年度事業の考え方及び予算計画を伺う。
答 (保健福祉部長) 二本松病院と連携し本年と同く確保する。

問 3年度も過去3年間と変わらぬ事業と予算で、更なる進展は望めないと思われるが、どのように図るのか伺う。

答 (保健福祉部長) 来年も今年度同様の予算で精力的に進める。産科医師招聘は市長の選挙公約の1丁目1番地で、選挙公約の1番上に掲げた事項である。具体的に進展が無い様に思われるが、公約として真に前へ進める成し遂げる思いはしっかりお持ちか。産科医師招聘という大変重い公約・政策にどのような活動をされたか。成し遂げる思いと活動を伺う。

答 (市長) 医科大学学長や獨協大学理事長、私立大学への訪問要請等実施した。二本松病院と連携して産科医再開に向け活動する。

問 先の新野市長も産科医師確保のため各所に赴き4年間取組んできた。JCHOからは二本松病院は「総合診療医」の病院として専門的な医師、産科・麻酔科等は行くことがないので、産科再開は不可能に近いと言う意見を賜っている。また、福島県の医療計

画の中で二本松病院は「周産期病院」としての位置付けにない。県からの医師派遣は無いと思われる。「JCHOの産科再開は不可能に近い意見」「県の周産期医療病院としての位置づけにない現状」を政策提言者の市長はどのように思われているか伺う。

答 (市長) 医師不足の中で医師確保が大変であることはわかっているが、産科医師確保などについて要請活動してきた。引き続き主体が二本松病院なので協議を重ね確保に向け取り組んでいく。

問 私は「JCHOの産科再開は不可能な意見」「県の周産期医療病院の位置づけにない現状」をどうお考えか訪ねた。再度質問する。

答 (市長) 先ほど答弁したとおりであります。
問 「先ほど答弁したとおりであります」そのとおりが判りません。理解できません。……先へ進みます。

問 二本松病院には産科がない。新たな産科開業になるのか伺う。
答 (保健福祉部長) 二本松病院は分娩・妊婦検診は行っていないが、修学資金貸与の1名の方を確保した。二本松病院と雇用協定を結んでいるので雇用して産科再開をして頂けると考える。

意見 目的はお産の出来る状態にするのが目的である。1人の産科医でその可能性は無い。更に修学資金の医学生を募る必要がある。

私見 二本松病院での産科再開には産科医3人、小児科医1人、麻酔科医1人、助産師・看護師等約8人が必要、医療機器や新生児室等の問題、産科診療の採算性の問題等大きな難題が山積み実現にはほど遠い。産科再開提言から約10年経過、まずは今の二本松の現状に合った妊婦・新生児への実現可能な支援策を構築すべきである。



佐藤源市

中島の地蔵桜・駐車場整備について

問 年間3万人を超える観光客があり、中島の地蔵桜を守る会では農地を借り上げ農地の一時転用をして、駐車場を確保し増え続ける観光客の対応をしている。近年は夜間観光客も増大し歩道等の安全対策が不可欠であり、市は観光立市を掲げているが今後どのような周辺整備を支援し取り組む考えか伺う。

答 市として中島の地蔵桜は有数のスポットとして考えている。駐車場は概ね開催期間内は対応可能であり、市として恒久的な駐車場の整備は考えていないが、来客数の増加、通年イベントの開催状況など、経過を見守り検討を重ねる。駐車場・歩道の照明・ガードレール等の設置は考えていない。市民との協働による支援事業での検討をされては。

中山間総合整備事業東和地区第3期への取組について

問 中山間総合整備事業東和地区、集落道路、防災施設、農道施設、圃場整備第3期への取組について伺う。

答 中山間総合整備事業は農業従事者の高齢化や後継者不足により農業人口が減少傾向にある。東和地域にとって基幹産業である農業の生産基盤整備と生活環境整備を総合的に整備し、地域の活性化が図れる有効な補助事業であり、市も長期的な事業展開を視野

に入れ、今後の東和地域の総合的な整備について県と協議する。

県道原町・二本松線整備改良について

問 県道原町・二本松線、針道字町交差点整備改良について伺う。
答 地元の皆様からの交差点改良要望は提出されているが、早期実現は困難であり、市道との関連もあり維持管理を充分に行う。

公道敷地内の未登記について

問 市道敷地内の未登記件数及び未登記土地の解消取組について、また、国県道の未登記土地解消のため県への要請について伺う。

中島の地蔵桜



答 未登記土地案件の全ての把握には至っていない。所有者が判明し移転登記条件が整っている場合は、分筆測量費を含めて市が対応する。国県道は所有者から申し出があれば速やかに対応する。



平栗征雄

二本松城文化観光施設について

建設中の二本松城文化観光施設につて、同会派鈴木議員が令和元年9月に一般質問した内容です。

問 二本松城文化観光施設を整備しどのように利用するのか伺う。

答 この施設は市内の観光地等を点でなく線として紹介する情報発信機能や観光客が訪問したい場所に案内できる市の観光情報の中心拠点とし、市内の観光地・市街地への周遊を促進し滞在時間の延長と市内での消費額向上を図る。

問 城址を観光し、観光地のルートや物産等のパネルを見て、市内をお客に回遊してもらうという想定か伺う。

答 ここは市内を歩く出発点になるという考えです。1階に歴史文化の展示施設、2階に観光情報機能を持たせる。

問 心配なのは菊人形やバスで来た客が、職員が想定しているようには恐らく他所にはいかないと思う。この施設のランニングコストはいくらに見込んでいるのか伺う。

答 現在実施計画中で現段階では算定しておりません。

問 公共事業において先に建ててから考えるとは、そもそも基本的

におかしいと思う。50年とかを待たず、5年後、10年後にまた廃れた建物になるのかと心配するが伺う。

答 (市長) 目的は歴史や文化伝統など貴重な資料が二本松市にはたくさん有り、訪れたお客さんに体感して頂くことです。現在、方向性を出したいと協議を続けているところです。

質問者私見 巨額を投じてやる事業であり、良いものを作って有効的に活用し、持続可能なものにしていただきたいの思いです。

令和2年9月の平栗の一般質問は

問 二本松市の観光業務はお城山を本丸として長く市民の交流と市民の潤う顧客の増加を期待したい。市長の考えを伺う。

答 (産業部長) この施設の利用価値を高めていくこと、本市の文化観光の発展に寄与できるよう今後も関係機関と連携を図り、事業展開の計画を立案してまいります。

私見 1年間を通して市内外から観光客を呼びこんで欲しい。春・秋にはイベントを開催し、市内に賑わいを起こしてきたが、これからの運営には、綿密な事業計画・実施計画をたて、努力していかなければと思っています。



鈴木一弘

空き家対策について

序論 空き家問題というと、一般的には所有者ではなく近隣住民側の視点で語られるのがほとんどであるが、所有者にも法律や税制などの物理的な問題を抱えているものと思われる。しかし地域の良好な生活環境に影響を及ぼすと考えられる以上、官民連携で解決に向け対応していかなければならない。将来、問題がより拡大すると思われる空き家の対応について市政を質す。

問 現在確認されている空き家の数と10年後の想定を伺う。

答 令和2年3月末時点では852件が空き家となっている。「二本松市空き家等対策計画」において空き家予備軍の想定を行っており、具体的には平成27年時点で65歳以上の高齢者のみ世帯は3,116世帯で全世帯数の16.3%を占め、住人が亡くなると空き家になる可能性が大きいものと予想しているが、現在の3.6倍となる見通しである。

問答 空き家の問題点と解決に向けた対策を伺う。
雑草の繁茂、害虫の発生、ごみの散乱、異臭問題、火災、倒壊の恐れなど周辺環境への悪影響がある。所有者への指導管理、協定団体による有効活用と適正な管理、空家等除却費補助事業を活用して頂き除却推進を図る。

問答 空き家と認識するのはどの時点からか伺う。
空き家の調査を地域区長などに依頼しており、時期にはタイムラグがあるが情報が寄せられた時点で空き家と認定する。

私見 空き家が増えるということはその地域の住民が減ることであり、地域の活力が低下するだけでなく道路、水道、電機などのインフラの維持が難しくなる。本市にとっては人口増の取組が喫緊の課題である。

市有空き地の利用活用について

問答 市有空地の数と面積を伺う。
普通財産で使用しておらず空地となっている市有地は17か所、17,400㎡で固定資産台帳上の評価額は1億900万円である。

問答 利活用はどのようにお考えか伺う。
公共事業の代替え地等のほか具体的な利用計画はない。売却可能な土地は財源確保の観点から一般競争入札、ネット公売、常時公売等により進めている。今後も積極的に進め財源確保をする。

問答 もっと膨大な数かと思ったが少ないのではないかと。
ある程度の広さの空き地で細かい土地は数に入れていない。

問答 民間事業者や地域の方々のアイデア等で活用する考えを伺う。
地元の方々に活用して頂いている土地もある。今後も地元の方や庁内関係部局で有効活用を検討していく。

問答 地域の方々や民間業者等と有効活用の相談会の開催をしては。
提言のとおりいろんな活用やいろんな手法が考えられる。市としては柔軟な対応で活用を検討していきたい。

私見 私有空き地も市民の財産である。官民一体となって有効活用を考え、できれば一般財源の確保につながればと願うものです。



佐藤運喜

序論 未来の二本松の為には、基幹産業である農業振興と道路を基軸としたバランスの取れた街づくりが重要である。今後の新しい市総合計画、またコロナ禍の今敢えて質問を繰り返す。

都市計画内の市道認定と整備計画について

問 舗装率、改良率の向上と市道への認定基準を伺う。

答 舗装は家屋に通じる未舗装区間や地域間の連絡路を主に行い、改良では通学路の危険箇所等の向上に努める。市道認定要件は、国道、県道、

市道のいずれかに接続して概ね5戸以上の住宅に連結し、排水の側溝を有すること。加えて敷地に境界、所有権移転等に問題がない道路等の基準を審査する。更に議会の議決を得て市道認定する。

問 仮置き場周辺道路等の補修と都市計画内（安達駅周辺）の道路計画の進捗状況を伺う。

答 輸送完了後、環境省と道路管理者等で状況確認の上、軽微な路面の穴埋等の維持補修や舗装打ち替え等の修繕を行う。市道安達駅・福岡線は今年度に道路改良を予定。県道安達停車場線は現在法面等の検討中であり、その整備に合わせて市道安達駅・源八坂線の事業着手に向け進めていく。

スマート農業の推進と農業経営安定化対策について

問 農業におけるドローン等の機器導入と経営安定化の為の収入保険への市の考えを伺う。

答 担い手農家や関係団体等の意見も参考に活用等を研究する。農業収入の減少を補填する保険制度への周知、加入促進に努める。「収入保険」への掛け金助成については今後検討する。

問 現在、福島市、伊達市、川俣町では、コロナ関連で1割減収の農業者を対象に負担額の10分の1の助成を決定しており、県内各市町村でその動きがある。本市独自の対応があるのか再度伺う。

答 現在において認定農業者への各種助成制度があり、農業を元気にする施策を含め今後の研究課題とする。

太陽光発電の農地活用について

問 現在までの申請許可件数、営農面積と農地転用面積、発電内容とそれに対する農業委員会の見解を伺う。

答 許可件数は3件であり、その営農面積は32a、一時転用面積は5.6㎡である。農業委員会の見解は環境対策、地産地消としての再生可能エネルギー活用は意義ある有益な事業としてとらえている。



ソーラーシェアリングは3箇所(内の1箇所)



斎藤 徹

本市の待機児童について

問 幼児教育無償化の影響で、保育施設への入所希望が増え、待機児童の増加はないか伺う。

答 例年、年度途中においては増加傾向だが、今年は極端な増加は無い。現時点で幼児教育・保育の無償化の影響は特にない。

問答 待機児童削減の対策を伺う。

答 定員を増やすため民間の保育所整備に国・県補助金等を活用し助成をしている。昨年度より市独自の対策で、3歳未満児の定員拡大を

行う保育所等の運営者に対し、施設改修費や備品購入費として定員拡大1名当り10万円の補助を行っている他、保育士を確保のための一助として昨年度から保育所等の運営者に対し、保育士宿舍借り上げ支援事業を実施している。保育施設の面積や保育士数の要件の範囲内で定員を超える受入れを行っている施設もある。

問 第1子が在園中で第2子が生まれ、親が子育てのために離職をした場合、第1子も退園するようになる。結果、待機児童は2人になる。さらに親の復職が難しくなるが、本市では第1子の退園に対しての時間的猶予やその他の配慮はあるか伺う。

答 同一保育所への兄弟、姉妹の同時入所を希望される場合には、入所調整の基準点数の加算する優遇措置はある。最終年度でそのまま次の小学校入学に繋がる場合は特別に猶予期間を設けている。

二本松城文化観光施設について

問答 多くのお客来場のための明確な目標となるメイン展示物を伺う。
施設は二本松城跡の歴史、文化、魅力を伝える新たな交流拠点で、二本松城跡のガイダンス施設機能を有し、常設メイン展示は「二本松城築城の歴史として畠山家時代の中世城館から丹羽家時代の近世城郭への変化」「丹羽家時代の二本松藩の城下整備」「戊辰戦争と二本松少年隊」の3つのテーマで映像を多用し、子供たちにもわかりやすく二本松城の歴史を伝える展示を予定している。

問答 市民の利用についての考えを伺う。
2階に自由利用の休憩ラウンジ、箕輪門を臨める野外デッキを備え、桜から深緑、紅葉、雪景色と1年を通して市民の皆様が霞ヶ城公園の自然に触れる憩いの場として利用できると考える。

問 お祭り広場に歴史資料館の太鼓台を利用することですが、整備が必要では。また、展示に関する工夫について伺う。

答 豆電球から消費電力の少ないLED電灯の採用を検討、太鼓台は展示制作の中で来場者の興味を引く趣のあるものを検討する。収蔵庫が少ないとの指摘があるが、対策を伺う。

問答 面積78㎡、高さ4.2mの中2階の構造で歴史資料館の貴重な歴史資料はほぼ収蔵できる規模である。
年間利用予想者数と予定料金を伺う。

問答 年間10万人、歴史展示施設入場料金の設定は、既存市有施設等の料金や運営等も考慮し現在検討中である。

問答 図面に乗っているミュージアムショップの内容を伺う。
問答 運営関係課と協議し来場者に喜んで貰えるグッズ等検討する。

市政刷新会議
の
目指す方向性

① 議会基本条例に則り、市民福祉の向上と市政推進に寄与してまいります。② 議会は自治体の意思決定機関であり、公平性、公正性、透明性を確保してまいります。③ 審議の場に多様な市民意見を反映させ、積極的に政策立案や政策提言に努めます。④ 「すべてはこどもたちの未来のために！」をモットーに次世代を見据えた活動をしてまいります。